

石小っ子の教育

5年生保護者さま 令和 8年 9月 28日 河内長野市立石仏小学校

すくすくテストからみた 石小っ子

4月に行われたすくすくテストの結果について学校全体の概要をまとめました。結果をもとに、本校の子どもたちの傾向を考察しました。この結果をもとにして、本校の子どもたちの実態を把握し、今後の効果的な指導のあり方につなげて、取り組んでいきたいと考えております。

すくすくテストの概要

【国語】 ◇概要

・平均正答率では、すべての項目において府の平均を大きく上回る結果となった。特に、知識及び技能の内容についてはよくできていた。無解答率もすべて0%で、あきらめずに自分なりの考えを表現することができていた。

◎特に成果が見られた問題例

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項では、[2(1)(2)]、[7(2)]がいずれも全員が正解しており、文中の助詞を正しく書いたり、指示語の指示内容をとらえたりすることができることがわかった。
- ・文の中の修飾語と被修飾語の関係をとらえる問題でも、府平均を20ポイント以上上回る9割を超える正答率で、日常の読書習慣の様子からも、文の内容を正しく理解する力が伸びていることわかる。

▲特に課題が見られた問題例

- ・主語と述語の関係をつかみ、述語の部分の正しく書き直す問い[3(1)(2)]、主語と述語の関係を捉えて、文の内容を理解する問い[12(2)]は正答率が低かった。内容が変わらないように文全体を整えることや、情報を整理して主語をつかむことが課題である。
- ・ローマ字を正しく書く問題では、「こうち」と読めるが、大文字と小文字の使い分けが不適切だとして準正答になったものも多く、固有名詞等は、大文字から書き始めるなど、基本的な決まりの定着に課題が見られた。

【算数】 ◇概要

・本校の平均正答率は、府の平均正答率を大きく上回る結果となった。問題の形式を見ると「選択式」の問題の平均正答率は44%、「短答式」の問題は58%の平均正答率である。そして、「記述式」の問題の平均正答率は74.1%であった。例年大きく下がる「記述式」の平均正答率がとても高い結果となった。また、無解答率は0%であった。最後まで粘り強くあきらめずに取り組んだことが伺える。

◎特に成果が見られた問題例

- ・二つの数量関係を読み取り、□や△を用いてその関係を式で表す設問では、大阪府の正答率を22%以上上回っている。[2(1)]
- ・2つの棒グラフを組み合わせたグラフから、それぞれの変化を読み取り、説明(記述)する設問では、大阪府の正答率を18%以上上回っている。[1(3)]

▲特に課題が見られた問題例

- ・2021年の米の値段をもとにして、2025年の値段が何倍であることを求める問題は唯一、大阪府の正答率を下回る結果となった。「もとにする量」と「比べる量」の理解が不十分だと考察できる。[1(2)]

【理科】 ◇概要

- ・全体の平均正答率は、府の平均を上回る結果となった。ほとんどの領域・観点・問題形式において府平均を上回っており、児童の理科に対する理解や関心の深さがうかがえる。全体として理科への関心や知識の定着は良好であり、本校の理科学習の成果が見られた。今後は知識を文章で正確に記述・表現する力の育成に重点を置き、さらなる学力の充実をはかっていきたい。

◎特に成果が見られた問題例

- ・温められた空気の移動(熱気球の仕組み)に関する理解については本校正答率100%であった。[1(1)]
- ・「粒子」を柱とする領域では、府平均を19%上回る非常に良好な結果となった。日常生活や実際の観察に結び付けた実感を伴う指導の成果と考えられる。[1(1)、1(4)]

▲特に課題が見られた問題例

- ・回路の直列・並列つなぎの性質を説明する問題では、大阪府の平均を大きく下回る結果となった。また乾電池の向きを変えた際の電流の向きのはたらきについての理解も29.6%にとどまっていることから、電気領域の概念定着に伸びしろがある。今後は、実験での観察内容と結果の理由を整理し、文章で表現させる指導をしていく。[2(2)①、2(2)②]

【わくわく問題(教科横断的問題)】

◇概要

- ・平均正答率は、すべての問題で大阪府の平均正答率を上回る結果となった。特に図や表、グラフ、短い文章、会話文等の内容を関連付けて正しく捉える問題と、自身で考えたことを理由や根拠を明確にして伝える問題については正答率が大阪府の平均より20%も高かった。それらの問題は記述式で解答する問題であったが、問題の意味を深く読み取り、比較し関連付け、理由を添えて自分の考えをまとめて答えられていた。

◎特に成果が見られた問題例

- ・様々な素材でできた部品を接着剤でくっつけようとして、くっつく素材、くっつかない素材の組み合わせと結果を整理した表を理解し、接着剤がものをくっつける仕組みも読み取った上で、自分の身の周りで接着剤を使ったらいいと思う【場面】【よいと思う接着剤】【どのようないいことがあるのか】を解答できていた。[1(3)]
- ・大阪観光をテーマにした問いであなたならこれから大阪に来る人たちのためにどのような【大阪1日観光プラン】を作りますか。【条件に合わせて解答】する問題について、問題の資料を2つ読み取り、3つのおすすめしたいことを書き、なおかつその魅力を文章にして解答することができていた。[2(3)]

▲特に課題が見られた問題例

- ・大阪観光にきた外国人旅行者からの相談を整理した文章の問いについて。一部に合う文章を選ぶ問題で、選択肢の文章がどこの表に当てはまるかを考えて解答する問題と、資料に不足している矢印を書き加える問題について、本校平均正答率が、大阪府平均正答率よりも高いが、その差が10%に留まっていた。文章から読み取り、資料を整理してすることができてはいるが、確実な選択肢を選びきれていないことがわかった。[2(1)(2)]

【児童アンケート】

◎特に成果が見られた質問 ※数値は、肯定的な回答

すく	質 問	本校	府
(8)	自分には、よいところがあると思いますか	100	86.1

本校は、100%と、府を大きく上回っている。教育活動において、一人ひとりの良さを認める声掛けや、委員会活動や学校行事等で、自分が周りの役に立っていると実感できる場面を今後も継続していきたい。

すく	質 問	本校	府
(28)	先生は、あなたの良いところを認めてくれている	100	92.5
(29)	先生は、あなたが間違っことをしたとき叱ってくれる	100	91.4
(30)	あなたには困ったときに、相談できる先生がいる	92.5	80.8
(31)	あなたには困ったときに、相談できる友だちがいる	96.3	91.4

子どもたちにとって、教職員が自分の良さを認めてくれる存在であると同時に、必要な時には適切に指導してくれる存在として認識されていることが分かる。また、(31)では、府平均を大きく上回っている。安心感のある人間関係を今後も形成していけるよう努めていきたい。

すく	質 問	本校	府
(39)	学級会では、自分たちで意見を出し合って、ものごとを決めている	88.9	79.8

子どもたちが、与えられた課題にだけ取り組むのではなく、自分たちで意見を出し合い、話し合いを通して学級生活を作っていることを示している。今後も、主体的に学べる、自分で考え、自分で決定し、みんなで協力しながら進めるような活動を大切にしていきたい。

すく	質 問	本校	府
(41)	その時間に学んだことについて、振り返りをしている	88.9	79.8
(43)	文章を読むとき、どこが大事なところか考えながら読んでいる	88.9	75.2
(45)	自分の考えをノートに書いている	92.6	81.8

(41)・(43)について高い数値を示していることから、自分で考えたり、自分の考えを表現したりする学習習慣が身についてきている。また、振り返りについても、授業に取り入れ、大切にしてきた一定の成果が見られる。

▲特に課題が見られた質問

すく	質 問	本校	府
(38)	学級会の話し合いでは、少数意見も大切にしている。	55.5	71.5

自分たちで意見を出し合って、ものごとを決めていくことはできるが、少数意見や自分とは異なる意見を受け入れ、生かしていくことには課題がある。今後、少数意見や自分とは異なった考えを価値付け、多様な考えを生かしていけるような話し合い活動を充実させていきたい。

すく	質 問	本校	府
(47)	自分の考えを積極的に発信している	44.4	60.7
(56)	自分でやりたい学習内容を考えて、家で勉強している	33.3	46.5

自分の考えをもつことだけではなく、自分で何を学ぶかを決め、その考えを他者に伝える主体的な学習に関して課題がある。課題、学習方法、調べる内容、発表方法など子どもたちが自分で選択して取り組んでいく場をどんどん授業の中で設定していきたい。

調査結果を受けて

(1) 学校が重点的に取り組んでいくこと

- ・対話を重ねて考えを深めることや振り返りを大切にした授業づくりを進めていきます。
- ・文章全体の構成を正しく読み取り、情報を整理して理解する力をつけるため、文章問題の取り組みに力を入れます。問いや答え、主張や根拠、具体例をつかみ自分の考えの形成につながる授業づくりを進めます。
- ・学んだことを他教科の学習でも活かせるように、伝え合う活動にも積極的に取り組んでいきます。
- ・単に「比べられる量 ÷ もとにする量 = 割合」といった公式の丸暗記にとどまらず、「なぜこのわり算になるのか」「出た商(答え)は何を表しているのか」を根拠とともに考え抜く学習を進めます。また、友だちと考えを伝え合い、多様な考えを比較・検討する授業づくりを進めます。

(2) 児童のみなさんに取り組んでほしいこと

- ・本をたくさん読みましょう。
- ・今までに習った漢字も自主的にくり返し練習をして、確実に身につけましょう。
- ・難しい問題に取り組んだり、不思議だなと思うようなことがあったりするときには、そのままにしないで、質問したり、自分で調べて、最後まであきらめず取り組みましょう。
- ・自分の考えや感想など、文章を書いた後は、読み直しをしましょう。読む人にわかりやすい文章になっているか、言葉が正しく使えているかを見直しましょう。
- ・学習したことが身の回りのどのような場面で活用されているのかを考えるようにしましょう。
- ・答えだけでなく、なぜそう考えたのかを言葉で説明する習慣を意識して取り入れてみましょう。
- ・わくわく問題のように、身近な事象や資料から読み取った情報を整理し、自分の考えや伝えたいことを進んで文章に表すことに挑戦しましょう。

(3) 保護者のみなさまに協力していただきたいこと

- ・家庭学習において、宿題のサポートをお願いします。
- ・小さな言動もたくさんほめてあげてください。お家の方からほめられたり認めてもらえたりすることは、子どもたちの自尊感情や、「やってみよう！」という前向きな言動のエネルギーとなります。
- ・ご家庭で本に触れる機会を増やしていただけるとありがたいです。
- ・日常生活の中にある科学的な現象(天気やものの温まり方、道具の工夫など)について、お子さまと一緒に目を向け、会話を交わす機会を作っていただけるようお願いします。
- ・学校での学習や家庭学習において、自分の考えをノートに分かりやすく書いたり、最後まで粘り強く考えたりする姿を暖かく見守り、励ましていただけるようご協力をお願いします。